HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	東京帝国大学農科大学・東北帝国大学農科大学における林学科の学科目編成について
Author(s)	佐々木, 朝子
Citation	北海道大学大学文書館年報, 18, 77-94
Issue Date	2023-03-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/89171
Type	bulletin (article)
File Information	18_04.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

＜ 研究ノート ＞

東京帝国大学農科大学・東北帝国大学農科大学における林学科の学科目編成について

佐々木　朝子

はじめに

近代日本の帝国大学における林学の高等教育は、東京山林学校を前身校の一つとする東京農林学校を、帝国大学（1886年設置、1897年「東京帝国大学」に改称。以後「東京帝大」と略す）が1890年に合併し、林学科を備えた農科大学を設置したことに始まる。

次に、東北帝国大学（以下、「東北帝大」と略す）農科大学が1907年に設置され、林学科が置かれた。1918年に北海道帝国大学が設置されると、東北帝大農科大学は、北海道帝国大学農学部になる。九州帝国大学（1911年設置）には1919年に、京都帝国大学（1897年設置）には1923年に、それぞれ林学科を備えた農学部が設置された。

東京・北海道・京都・九州帝国大学農学部の設置と展開については、藤岡健太郎「帝国大学農学部の形成と展開―学科・講座・附属施設の設置に着目して―」[1] が、設置当初から新制大学発足までの期間を対象として学科・講座・附属施設の設置状況を整理し、「4帝国大学の農学部は前身校をもつ東大・北大が先行し、九大・京大が後追いする、というかたちで形成・展開された」「九大が東大の影響を受けたとみられるのに対し、京大は東大とも北大とも異なる農学部を作ろうとしていたと見受けられる」と述べる。

本稿では、帝国大学農学部についての研究を踏まえつつ、各帝国大学の林学科の特質を調査するために、各帝国大学が規定する林学科の教育内容に注目する。

林学科の教育内容は、各帝国大学や時期により、「帝国大学農科大学学科課程」、「授業科目及授業時間」「学科目」等に定められていた。本稿では「学科目」と称する。

1890年制定の東京帝大農科大学林学科の学科目は、学年別に必修の科目名と学期ごとの時間数を設定していた。東京帝大農科大学林学科や東北帝大農科大学林学科の学科目は同様の編成を踏襲していたが、1919年の東京帝大農学部林学科の学科目改正において、学年の区分けが撤廃され、必修科目に加えて選択科目19科目から6科目以上を選択することと規定された。1919年以降に改正・制定された「北海道帝国大学農学部規程」（1920年改正）、「九州帝国大学農学部規程」（1921年制定）、「京都帝国大学農学部規程」（1924年制定）は、学年別の編成を採用せず、後二者は林学科の学科目に選択科目を設けている。

本稿では1919年を画期として、1890年から1918年までを対象期間とする。1918年までに設置されていた東京帝大農科大学林学科、東北帝大農科大学林学科について、学科目を比

較、検討する。

１．東京帝国大学農科大学林学科の概要と学科目

１－１．東京帝国大学農科大学林学科の概要

日本最初の林学の専門教育機関である東京山林学校と駒場農学校が合併して成立した東京農林学校（1886年設置）を、1890年６月に東京帝大が合併し、農科大学を設置した[2)]。1918年までに、東京帝大農科大学には農学科、林学科、獣医学科、農芸化学科、水産学科が設置された（表１）。

表１　帝国大学農科大学・東京帝国大学農科大学の学科一覧（1890年-1918年）

学科	設置	前身
農学科	1890年６月	東京農林学校農学部
林学科	1890年６月	東京農林学校林学部
獣医学科	1890年６月	東京農林学校獣医学部
農芸化学科	1893年12月	帝国大学農学科第二部
水産学科	1910年４月	―

典拠）「設置」は、1890年６月12日付『官報』、1893年12月14日付『官報』、1910年４月22日付『官報』による。

東京農林学校は、東京山林学校を継承する「林学部」、駒場農学校を継承する「農学部」「獣医学部」を設置していた。1890年６月に設置された農科大学は、東京農林学校の制度を継承して「農学科」「林学科」「獣医学科」の３学科を設置した[3)]。同年９月制定の「農科大学学科課程」では、農学科を農学中心の第一部と農芸化学中心の第二部に分けている[4)]。1893年12月に、農学科第一部を「農学科」に、農学科第二部を「農芸化学科」に改めた[5)]。さらに1910年４月、「水産学科」を設置した[6)]。

1893年、「帝国大学各分科大学ニ於ケル講座ノ種類及其ノ数ヲ定ムルノ件」（勅令第93号、1893年９月８日公布）により、講座制度が確立すると、1918年までに東京帝大農科大には林学に関する講座として５講座が設置された（表２）。

表２　帝国大学農科大学・東京帝国大学農科大学の林学に関する講座（1890年-1918年）

林学に関する講座	設置年月	専門	講座担任（期間）
林学第一講座	1893年９月	森林経理学（森林制設学）	志賀泰山（1893年-1900年） 右田半四郎（1900年-1930年）
林学第二講座	1893年９月	造林学	本多静六（1893年-1927年）
林学第三講座	1893年９月	林政学	川瀬善太郎（1895年-1924年）
林学第四講座	1900年３月	森林理水及び砂防工学	諸戸北郎（1912年-）
森林利用学講座	1902年３月	森林利用学	河合鈰太郎（1902年-1917年）

典拠）「設置年月」は、1893年９月８日付『官報』、1900年３月30日付『官報』、1902年３月28日付『官報』による。「専門」、「講座担任（期間）」は、『東京大学百年史』部局史二（1987年）による。

1893年９月に、林学第一講座、林学第二講座、林学第三講座が設置された[7]。1900年３月に林学第四講座が[8]、1902年３月に森林利用学講座が設置され[9]、1919年までに東京帝大農学部の林学に関する講座は、５講座となった。

林学第一講座は森林経理学（森林制設学）を専門とする講座で、ドイツで森林経理学を学んだ志賀泰山が1900年まで講座担任を務めた[10]。志賀の後任は右田半四郎である。

林学第二講座は造林学を専門とする講座で、講座担任は本多静六であった。本多には、専門の造林学のほかに、日比谷公園や明治神宮の造営等の造園に関する業績もある。

林学第三講座は林政学を専門とする講座で、設置当初は林学第二講座の本多静六が講義を兼任していたが、1895年に林政学を専門とする川瀬善太郎がドイツ留学から帰朝し、初代の講座担任を務めた。川瀬は林政学に加えて、森林法律学、森林管理学、狩猟学を教授した。狩猟学に関わる著作には 『たぬき』『しか』[11] がある。

1900年３月には林学第四講座が設置された。林学第四講座は森林理水及び砂防工学を専門とする講座である。傭外国人教師のカール・ヘフェレ（ドイツ）[12]、アメリゴ・ホッフマン（オーストリア）、河合鈰太郎が「森林理水及砂防工」（1909年「森林理水砂防工学」に改称）の講義を担当していたが、1912年より諸戸北郎が初代の講座担任を務めた。

次いで1902年３月に森林利用学講座が設置された。森林利用学講座は、森林利用学や測量学を専門とする河合鈰太郎が講座担任を務めた。河合の業績には、台湾阿里山での集材機導入や森林鉄道の敷設や、京都帝国大学農学部の設立委員を務めたこと等が挙げられる。

１－２．東京帝国大学農科大学林学科の学科目

東京帝大農科大学の学科目である「農科大学学科課程」は、学科ごとに、各学年の学科目及び時間数を定めている。農科大学学科課程は、東京帝大が農科大学を設置した1890年以降に発行した『帝国大学一覧』及び『東京帝国大学一覧』（以下、『帝国大学一覧』『東京帝国大学一覧』『東北帝国大学農科大学一覧』を『一覧』と称す）の「農科大学」の項目に、「学科課程」として掲載されている。

東京帝大の各分科大学の「学科課程」制定･改正は、『官報』に掲載されている。また、各年に発行された『一覧』掲載の「学科課程」を見比べると、『官報』に「学科課程」改正の記事が無い年にも学科目の変更があり、改正がうかがわれる場合がある。

東京帝大農科大学林学科の学科目は、1890年の「農科大学学科課程」制定から1918年の間に、『官報』では４回の改正が確認できる。また、『官報』には掲載されないものの『一覧』で学科目に変更が見られる場合を２回確認しており、制定後、少なくとも計６回の改正がなされたものと考えられる（表３）。

表３　帝国大学農科大学林学科・東京帝国大学農科大学林学科の学科目制定・変更一覧（1890年-1918年）

年月	制定・改正	典拠
1890年９月	「農科大学学科課程」制定	1890年９月15日付『官報』第2165号
1892年９月	「農科大学学科課程」改正	1892年９月30日付『官報』第2779号
1893年12月	「農科大学学科課程」改正	1893年12月14日付『官報』第3139号
1895年９月	「農科大学学科課程」改正	1895年９月24日付『官報』第3672号
1899年-1900年	『東京帝国大学一覧』　農科大学学科課程林学科の学科目に「森林理水及砂防工学」「林学通論」増加	『東京帝国大学一覧　従明治三十三年至明治三十四年』第（1900年12月15日発行）
1908年９月	「農科大学学科課程」改正	1908年９月14日付『官報』第7565号
1915年	『東京帝国大学一覧』　農科大学学科課程林学科の学科目で「地質学」「土壌学」分割、「林学特別講義」細目の明示、一部学科目の学年を入れ替え	『東京帝国大学一覧　従大正四年至大正五年』（1916年２月18日発行）

注）「年月」欄は、『官報』の発行年月、または、前年の『一覧』発行から当該『一覧』の発行までの期間を示した。

東京帝大は、1890年９月に「農科大学学科課程」を制定した。1980年９月15日付　『官報』は、「学科課程改正制定」として、東京帝大法科大学の学科課程の改正とともに、「農科大学学科課程」を掲載する。「農科大学学科課程」は、農学科第一部・農学科第二部・林学科・獣医学科の学科目について、学年別の学科目名と時間数を一覧にしており、林学科の学科目が判明する。

1892年９月の改正では、1892年９月30日付　『官報』に全文が改正された「農科大学学科課程」が掲載され、農学科第一部・農学科第二部・林学科・獣医学科の学科目が判明する。林学科の学科目は、複数の科目が変更、追加されている。

1893年12月の改正では、「医科大学薬学科課程」「工科大学学科課程」「理科大学学科課程」とともに、「農科大学学科課程」４項目の改正が1893年12月14日付　『官報』に掲載された。林学科に関わる項目には次の記載がある。

農学科（旧一部）農芸化学科（旧二部）及林学科ノ各第一第二年学科中左ノ一科ヲ削ル
　独逸語　一年間　毎週三時

この改正により、農学科、農芸化学科、林学科の第一年、第二年に課していた、１年間に毎週３時間のドイツ語の学科目が削除された。林学科の学科目から語学に関する科目がなくなり、専門科目で構成されるようになった。1893年12月には、上記以外に①農芸化学科の設置、②農芸化学科の学科目に「発酵化学」を加える、③農芸化学科設置に伴う農科大学に付設の「予科」学科目の変更という３項目が改正された。

1895年９月の改正は、1895年９月24日付　『官報』「学事」に、「学科課程改正」として、全文を改正した「農科大学学科課程」「乙科規則」が掲載された。「農科大学学科課程」

は、農学科、農芸化学科、林学科、獣医学科の学科目と、異なる課程の農学科乙科、林学科乙科、獣医学科乙科の学科目から成る。林学科の学科目には、複数の科目の変更、追加が見られる。

1895年９月から1908年９月まで、『官報』には「農科大学学科課程」改正の記事が見当たらないが、『東京帝国大学一覧　従明治三十三年至明治三十四年』「第十四章農科大学第二学科課程」掲載の林学科の学科目には、新たに「森林理水及砂防工」が加わった。前年度の『一覧』が発行された1899年から、当該『一覧』が発行された1900年の間に改正されたとみられる。

「農科大学学科課程」は1908年９月に改正され、1908年９月14日付『官報』「学事」欄「学科課程改正」に、農学科、農芸化学科、林学科、獣医学科の学科目全文が掲載された。

『東京帝国大学一覧　従大正四年至大正五年』「第十五章農科大学　第二学科課程」掲載の林学科の学科目では、それまで１科目であった「地質学及土壌学」を、「地質学」「土壌学」の２科目に分割したほか、第二年の「森林化学」「法学通論」を第一年に、第一年の「森林動物学」「森林動物学実験」を第二年に、第三年の「森林保護学」「森林法律学」を第二年に、第二年から第三年の「林政学」を第二年のみに、学科目の学年を変更している。また、「林学特別講義」について、「第一　造林及森林保護ニ関スル事項」「第二　森林利用及森林化学ニ関スル事項」「第三　森林工学及砂防工ニ関スル事項」「第四　森林経理及林政ニ関スル事項」の４項目から１項目を選択するように明示した。この改正は『官報』に見当たらないが、当該『一覧』が発行された1915年に改正されたものと考えられる。

林学科の学科目の制定、改正のうち、『官報』に制定・改正が掲載され、かつ学科目の全文が明らかな、1890年９月、1892年９月、1895年９月、1908年９月の学科目の詳細を表４に示した。

表４　東京帝国大学農科大学林学科の学科目（1890年-1918年）

学年	学科課程（1890年9月制定）	学科課程（1892年9月改正）	学科課程（1895年9月改正）	学科課程（1908年9月改正）
	学科目	学科目	学科目	学科目
第一年	森林数学	森林数学	森林数学	高等数学
	地質学及土壌学	地質学及土壌学	最小二乗法及力学	地質学及土壌学
	気象学	気象学	地質学及土壌学	気象学
	森林植物学	森林植物学	気象学	森林植物学
	森林動物学	森林動物学	森林植物学	植物生理学
	森林測量法	森林測量	植物生理学	森林動物学
	森林植物学実験	森林植物学実験	森林動物学	森林測量学
	森林動物学実験	森林動物学実験	森林測量	森林物理学及森林工学
	実地演習	実地演習	森林物理学	測樹学
	独逸語	独逸語	造林学	造林学
	—	—	経済学	経済学

	—	—	林学通論	森林植物学実験
	—	—	植物学実験	森林動物学実験
	—	—	動物学実験	森林測量学実習及製図
	—	—	森林測量実習	造林学実習
	—	—	造林学実習	経済学演習
	—	—	実地演習	林学実地演習
第二年	森林数学	森林数学	森林数学	林価算法及森林較利学
	森林設制学	森林設制学	森林経理学	森林経理学
	造林学	造林学	造林学	造林学
	森林管理法	森林保護論	森林保護学	樹病学
	森林歴史	森林歴史	樹病学	森林物理学及森林工学
	理財学	理財学	森林管理	森林理水及砂防工学
	森林物理学	森林物理学	林政学	林政学
	森林土木学	森林道路	森林法律学	財政学
	森林副産物製造法	森林利用学	財政学	法学通論
	森林物理学実験	林産製造学	法学通論	森林利用学
	森林植物学実験	農学大意	森林利用学	森林化学
	実地演習	森林植物学実験	森林道路	測樹学実習
	独逸語	森林動物学実験	森林化学	造林学実習
	—	林産製造学実験	［随意科目］養魚論	森林工学計画及実習
	—	実地演習	［随意科目］農学大意	森林理水及砂防工学計画及実習
	—	独逸語	造林学実習	森林化学実験
	—	—	森林道路実習	林学特別講義
	—	—	森林化学実験	—
第三年	森林設制学	森林設制学	森林経理学	森林経理学
	森林統計学	森林管理法	造林学	造林学
	森林保護論	林政学	林政学	森林保護学
	林政学	森林法律学	森林法律学	森林管理学
	森林法律学	財政学	森林利用学	林政学
	財政学	森林利用学	［随意科目］狩猟術	森林法律学
	森林利用学	養魚論	実地演習	森林利用学
	実地演習	実地演習	卒業論文	林学特別講義
	卒業論文	卒業論文	—	［随意科目］農学大意
	—	—	—	［随意科目］狩猟術
	—	—	—	［随意科目］養魚論
	—	—	—	森林利用学実習
	—	—	—	森林経理学実習
	—	—	—	林学実地演習
	—	—	—	卒業計画

典拠・注）1890年９月15日付『官報』、1892年９月30日付『官報』、1895年９月24日付『官報』、1908年９月14日付『官報』による。以下、随意科目については［随意科目］と表示する。

1890年９月から1908年９月までの学科目を通覧すると、1892年９月の改正では第二年で２科目が増加するにとどまるが、1895年９月の改正では第一年の科目数が７科目増加、第三年の科目が１科目減少し、1908年９月改正では第三年の科目数が７科目増加した。改正の度に学科目が増加していることがわかる。以下、「農科大学学科課程」制定時の学科目および改正内容をまとめ、東京帝大農科大学林学科の学科目の変遷をたどる。

⑴ 「農科大学学科課程」（1890年９月制定）に規定された科目名

第一年の講義には、林学の専門教育に必須の「独逸語」、他学科とも共通する「地質学及土壌学」「気象学」、林学の専門科目として「森林数学」「森林植物学」「森林動物学」「森林測量法」の講義がある。実験等には、「森林植物学」に対応する「森林植物学実験」、「森林動物学」に対応する「森林動物学実験」を課す。

第二年の講義には、「独逸語」「森林数学」が第一年から続く。新たに課される講義には、「森林設制学」「造林学」「森林管理法」のほか、工学に隣接する「森林物理学」「森林土木学」、化学に隣接する「森林副産物製造法」歴史学や経済学といった文系の学問に隣接する「森林歴史」「理財学」がある。実験には、第一年から続く「森林植物学実験」のほかに、「森林物理学」に対応する「森林物理学実験」がある。

第三年の講義には、第二年から続く「森林設制学」に加えて、新たに「森林統計学」「森林保護論」「林政学」「森林法律学」「財政学」「森林利用学」が課される。実験は課さず、「卒業論文」の提出が必要になる。

また、通年で「実地演習」が設定されている。

⑵ 「農科大学学科課程」（1892年９月改正）の改正点

第一年の科目は、「森林測量法」が「森林測量」に名称を変更したほかに変更点はない。

第二年では、講義から「森林土木学」に代えて「森林道路」が、「森林副産物製造法」に代えて「林産製造学」が課された。また、「森林保護論」「農学大意」が増加した。なお、第三年の科目であった「森林利用学」が第二年から第三年にかけての科目に変更された。実験では、「森林植物学実験」とともに、第一年から「森林動物学実験」が継続する。また、「林産製造学」に対応する「林産製造学実験」が増加した。

第三年では、「森林統計学」「森林保護論」が削除され、「森林管理法」「養魚論」が増加した。

⑶ 「農科大学学科課程」（1895年９月改正）の改正点

1893年の改正により、第一年・第二年の「独逸語」は既に削除されている。

第一年では、変更前と比較して７科目が増加した。数学に関する科目として「森林数学」に加えて「最小二乗法及力学」が、植物学に関する科目として「森林植物学」に加えて「植物生理学」が増加したほか、1892年９月には第二年の科目であった「森林物理学」と、「理財学」が名称を変更した「経済学」は第一年の科目となり、同じく第二年の科目

であった「造林学」が第一年から第二年にかけての科目となった。また、新たに「林学通論」が増加した。実習では、「森林測量」「造林学」に対応する「森林測量実習」「造林学実習」が増加した。

第二年では、「造林学」「森林物理学」「経済学」を第一年の科目に変更した代わりに、「森林管理」が第三年の科目から第二年の科目に、また「林政学」「森林法律学」が第三年の科目から第二年および第三年にかけての科目に変わり、「財政学」が増加した。また、新たに「法学通論」「森林化学」が増加した。なお、「森林設制学」は「森林経理学」に、「森林保護論」は「森林保護学」に名称を変更している。そして、最も大きな変化は、「随意科目」を設定したことである。随意科目には「養魚論」「農学大意」が設定された。

第二年の実習、実験には、講義に対応する「造林学実習」「森林道路実習」「森林化学実験」が増加した。

第三年では、「森林経理学」「林政学」「森林法律学」「森林利用学」を第二年から継続するほか、「造林学」が増加した。また、随意科目として「狩猟術」が増加した。「森林管理」は第二年の科目に変更された。

⑷「農科大学学科課程」（1908年９月改正）の改正点

第一年では、1895年９月時点の学科目について、「森林数学」を「高等数学」に、「森林測量」を「森林測量学」に、「森林物理学」を「森林物理学及森林工学」に名称を変更した。また、「最小二乗法及力学」「林学通論」を削除し、「測樹学」が増加した。実習では、「経済学演習」が増加した。

第二年では、「森林物理学及森林工学」を第一年から継続する。また、「森林理水及砂防工学」が増加し、「森林管理」「森林法律学」が第二年の科目から第三年の科目に変更された。実習では、「森林道路実習」を削除し、「測樹学実習」と、工学に関する実習である「森林工学計画及実習」「森林理水及砂防工学計画及実習」が増加した。また、新たに「林学特別講義」を設定した。

第三年では、「森林管理学」を第二年の科目から第三年の科目に、第二年から第三年の科目「森林法律学」を第三年のみの科目に変更し、1895年９月改正以前と同様に戻した。また、随意科目「養魚論」「農学大意」「狩猟術」は、全て第三年の科目となった。実習では、「森林利用学実習」「森林経理学実習」が新たに増加した。なお、第二年に引き続き「林学特別講義」が設定されている。

（まとめ）

1890年の制定時の学科目は、第一年で基礎科目と言える「地質学及土壌学」「気象学」等を課し、第二年を中心に、林学の専門科目である「森林設制学」「森林管理法」等を設定している。第三年の学科目数は、「卒業論文」の提出に向けて、第一年、第二年と比較して少ない。

1895年９月の改正では、「森林物理学」が第二年の科目から第一年の科目になり、第二年では「森林化学」が増加した。また、1908年９月の改正では、第二年に「森林理水及砂防工学」が増加した。第一年から第二年にかけて、理工学に隣接する科目が多くなる一方で、「林政学」「森林法律学」は第二年から第三年で課されている。大まかな傾向として、第一年から第二年は理工学に関連する分野を中心に課し、法学・社会学に関連する分野は第二年から第三年に課している。

２．東北帝国大学農科大学林学科の概要と学科目

２－１．東北帝国大学農科大学林学科の概要

1907年６月22日、東北帝国大学を設置し、札幌農学校を東北帝国大学農科大学とする勅令が公布された[13]。また、同年６月24日には、農学科・農芸化学科・林学科・畜産学科の設置と授業開始時期が公布された[14]（表５）。

表５　東北帝国大学農科大学の学科一覧（1907年-1918年）

学科	授業開始年月
農学科	1907年９月
農芸化学科	1907年９月
林学科	1910年９月
畜産学科	1910年９月

典拠）1907 年 6 月 24 日付『官報』。

1907年９月に東北帝大農科大学が設置されると、札幌農学校の生徒は、本科二、三年生は農学科に、一年生は農学科と農芸化学科に振り分けられ[15]、農学科、農芸化学科の授業が開始した。林学科は畜産学科とともに、1910年９月より授業を開始した。

東北帝国大学農科大学に、林学に関する講座は５講座が設置された（表６）。

表６　東北帝国大学農科大学に設置された林学に関する講座（1907年-1918年）

林学に関する講座	設置年月	専門	講座担任（期間）
林学第一講座	1909年５月	森林経理学	小出房吉（1910年～）
林学第二講座	1910年３月	造林学・森林保護学	新島善直（1910年～）
林学第三講座	1911年５月	森林利用学	宮井健吉（1913年～）
林学第四講座	1911年５月	森林理水及砂防工学	堀観次郎（分担､1911年-1912年） 内山幸三（分担､1911年-1914年） 影山純介（分担､1913年～） 吉川元民（分担､1914年～）
林政学及森林管理学講座	1912年５月	林政学及森林管理学	宍戸乙熊（1912年～）

典拠）「設置年月」は 1909 年 5 月 25 日付『官報』、1910 年 3 月 28 日付『官報』、1911 年 5 月 3 日付『官報』、1912 年 5 月 30 日付『官報』、「専門」は『北大百年史』部局史（1980 年）による。

林学科の授業開始直前の1909年５月には森林経理学を専門とする林学第一講座が、翌1910年３月には造林学・森林保護学を専門とする林学第二講座が設置された。林学科の授業開始後の1911年５月には森林利用学を専門とする林学第三講座、森林理水及砂防工学を専門とする林学第四講座が、1912年３月には林政学及森林管理学講座が設置された。

林学第一講座の担任は小出房吉が、林学第二講座の担任は新島善直が、林学第三講座の担任は宮井健吉が、林学第四講座は堀観次郎、内山幸三、影山純介、吉川元民が分担し、林政学及森林管理学講座は宍戸乙熊が担任を務めた。小出房吉、新島善直、宮井健吉、堀観次郎、内山幸三、影山純介、吉川元民、宍戸乙熊は、全員が東京帝大を卒業した林学士林学博士あるいは林学士であった。

２－２．東北帝国大学農科大学林学科の学科目

学科目を定める「東北帝国大学農科大学規則」が1907年６月に制定された後、北海道帝国大学が設置される1918年までの間に、林学科の学科目は二度改正された（表７）。

表７　東北帝国大学農科大学林学科の学科目制定・改正状況一覧（1907年-1918年）

年月	制定・改正	典拠
1907年７月	「東北帝国大学農科大学規則」制定	1907年７月10日付『官報』第7208号
1910年６月	「東北帝国大学農科大学規則」改正	1910年６月21日付『官報』第8098号
1913年７月	「東北帝国大学農科大学規則」改正	1913年７月３日付『官報』第278号

1907年７月、「東北帝国大学農科大学規則」が制定[16]され、林学科の学科目が、他学科の学科目とともに定められた。ただし、林学科の授業開始直前の1910年６月に改正されたため、制定当初の学科目に則った授業は行われていない。

1910年の改正では、第一年の学科目で、制定時の学科目「森林動物学」１科目を「森林昆虫学」「応用鳥学」の２科目に分けたほか、「森林植物学」「最小二乗法」「森林工学」「岩石学実験」「森林数学実習」「経済学実習」「実地演習」を加えた[17]。第二年には、新たに「林産製造学」「財政学」「林産製造学実験」「森林理水及砂防工学計画及実習」が増加した。第三年では、第二年から「森林保護学」「森林管理学」を繰り上げたほか、「森林利用学」、「木材商況論」、随意科目の「殖民学」、「森林利用学実習」、「森林経理学実習」が新たに加わった。

林学科の学科目は1913年７月に再び改正された。第一年の学科目では、「植物生理学」を「森林植物生理及生態学」、「森林植物学」を「森林植物形態及分類学」とするなど、科目名がより詳細に変更された。また、「森林昆虫学及応用鳥学実験」が「森林昆虫学実験」「応用鳥学実験」に細分化された。第二年では、「行政法」「民刑事訴訟法」といった法学関連の科目や、「木材工芸的性質論」とそれに対応する「木材工芸的性質実験」が増加した。「森林数学」は、第一年では「測樹学」、第二年では「林価算法及林業較利学」に科目

名が変更され、講義に対応する実習「測樹学実習」「林価算法及林業較利学演習」が第二年に設定された。第三年では、「林業史」「森林美学」「森林牧畜論」「農政学」が新たに講義に加わった。

⑴　東京帝国大学農学部林学科の学科目（1899年-1900年改正）と東北帝国大学農科大学林学科の学科目（1907年制定）の比較

東北帝大農科大学林学科が「東北帝国大学農科大学規則」に林学科の学科目を定めた1907年６月、帝国大学農科大学林学科として先行する教育機関は、東京帝大農科大学林学科のみであった。東京帝大農科大学林学科の学科目は、1907年には「農科大学学科課程」（1899年-1900年改正）に則っていた（表８）。

表８　東京帝国大学農科大学林学科と東北帝国大学農科大学林学科の学科目（1907年）

学年	東京帝国大学農科大学学科課程（1899年-1900年改正）	東北帝国大学農科大学規則（1907年制定）
第一年	森林数学	森林数学
	気象学	気象学
	植物生理学	植物生理学
	森林動物学	森林動物学
	林学通論	林学通論
	造林学	造林学
	経済学	経済学
	植物学実験	植物学実験
	動物学実験	動物学実験
	森林測量	森林測量学
	森林測量実習	測量実習
	造林学実習	造林実習
	地質学及土壌学	土壌論
	—	岩石学
	—	法学通論
	最小二乗法及力学	—
	森林物理学	—
	森林植物学	—
	実地演習	—
第二年	森林数学	森林数学
	森林経理学	森林経理学
	造林学	造林学
	樹病学	植物病理学
	森林利用学	森林利用学
	森林道路	森林道路論
	森林理水及砂防工	理水及砂防論

	森林保護学	森林保護学
	林政学	林政学
	森林法律学	森林法律学
	森林管理	森林管理学
	森林化学	—
	財政学	—
	法学通論	—
	林学通論	—
	森林化学実験	—
	造林学実習	造林実習
	森林道路実習	森林道路実習
	—	実地演習
第三年	森林経理学	森林経理学
	造林学	造林学
	森林利用学	林産製造学
	—	理水及砂防論
	森林法律学	—
	林政学	林政学
	［随意科目］養魚論	—
	［随意科目］農学大意	［随意科目］農学
	［随意科目］狩猟術	［随意科目］狩猟論
	—	造林実習
	—	林産製造実習
	実地演習	実地演習
	卒業論文	卒業論文

典拠）『東京帝国大学一覧　従明治三十三年至明治三十四年』、1907年７月10日付『官報』による。

東北帝大農科大学林学科の学科目では、第一年に設定した15科目のうち、「森林数学」「気象学」「植物生理学」「森林動物学」「林学通論」「造林学」「経済学」「植物学実験」「動物学実験」の９科目が東京帝大農科大学林学科と同一の科目である。また、異なる科目のうち、「森林測量学」「測量実習」「造林実習」は、帝国大学農科大学の「森林測量」「森林測量実習」「造林学実習」に相当する。

相違点は、①東北帝大農科大学林学科において他学科と共通する基礎科目である「岩石学」「土壌論」に相当する科目が、東京帝大農科大学林学科では「地質学及土壌学」1科目であること、②東京帝大農科大学林学科の「最小二乗法及力学」「森林物理学」「森林植物学」「実地演習」を東北帝大農科大学林学科は課していないこと、③「法学通論」「林学通論」が東京帝大農科大学林学科では第一年で課されていないことの３点が挙げられる。

東北帝大農科大学林学科第二年の学科目では、全14科目のうち「森林数学」「森林経理学」「造林学」「森林利用学」「森林保護学」「林政学」「森林法律学」「森林道路実習」の

８科目が東京帝大農科大学林学科の学科目と一致する。一致しない科目は「植物病理学」「森林道路論」「理水及砂防論」「森林管理学」「造林実習」で、東京帝大の学科目では「樹病学」「森林道路」「森林理水及砂防工」「森林管理」「造林学実習」が相当する。

東京帝大農科大学林学科第二年の学科目のうち、「森林化学」「財政学」「法学通論」「林学通論」「森林化学実験」は、東北帝大農科大学林学科第二年の学科目には相当する科目がない。うち、「法学通論」「林学通論」は、東北帝大農科大学林学科では第一年の学科目に組み入れられている。残る「森林化学」「財政学」「森林化学実験」は、東北帝大農科大学林学科の学科目には相当する科目がなく、東京帝大農科大学林学科のみで課されている。

東北帝大農科大学林学科第三年の学科目では、全11科目のうち、「森林経理学」「造林学」「林政学」「実地演習」「卒業論文」の５科目が東京帝大農科大学林学科第三年の学科目と一致する。一致しない学科目には「林産製造学」「理水及砂防論」「農学」「狩猟論」「造林実習」「林産製造実習」がある。うち、「理水及砂防論」「造林実習」は第二年にも設定されていた科目である。随意科目の「農学」「狩猟論」は、東京帝大農科大学林学科の随意科目「農学大意」「狩猟術」に対応する。「林産製造学」は、東京帝大農科大学林学科第三年の学科目の中では「森林利用学」に対応すると考えられる。一般に、林産製造学は森林化学とともに森林利用学の分野の一つである。東京帝大農科大学林学科では、第二年に「森林化学」を、第三年に「森林利用学」を課すのに対して、東北帝大農科大学林学科では、第三年に「林産製造学」を課していると整理することができるであろう。「林産製造実習」は、第三年で、東北帝大農科大学林学科のみが設定し、東京帝大農科大学林学科では設定していない科目である。第三年においては、東北帝大農科大学林学科は東京帝大農科大学林学科よりも多く実習の科目を設定している。

⑵　東京帝国大学農学部林学科の学科目（1908年改正）と東北帝国大学農科大学林学科の学科目（1910年・1913年改正）の比較

東北帝大農科大学林学科は1910年、1913年に「東北帝国大学農科大学規則」を改正し、林学科の学科目を改めた。1910年から1913年には、東京帝大農科大学林学科の学科目は、1908年に改正した「農科大学学科課程」に則っていた（表９）。

表９　東京帝国大学農科大学林学科と東北帝国大学農科大学林学科の学科目（1908年-1918年）

学年	東京帝国大学農科大学学科課程（1908年改正）	東北帝国大学農科大学規則（1910年改正）	東北帝国大学農科大学規則（1913年改正）
第一年	気象学	気象学	気象学
	地質学及土壌学	土壌学	土壌学
	—	岩石学	岩石学
	植物生理学	植物生理学	森林植物生理及生態学

	森林植物学	森林植物学	森林植物形態及分類学
	森林動物学	森林昆虫学	森林昆虫学
	—	応用鳥学	応用鳥学
	高等数学	森林数学	—
	—	最小二乗法	最小二乗法
	森林物理学及森林工学	森林工学	森林工学
	森林測量学	森林測量学	森林測量学
	測樹学	—	測樹学
	造林学	造林学	造林学
	経済学	経済学	経済学
	—	法学通論	法学通論
	—	岩石学実習	岩石学実験
	森林植物学実験	森林植物学実験	森林植物形態及分類学実験
	森林動物学実験	森林昆虫学及応用鳥学実験	森林昆虫学実験
	—	—	応用鳥学実験
	森林測量学実習及製図	森林測量学実習及製図	森林測量学実習及製図
	—	森林数学実習	—
	—	—	測樹学実習
	造林学実習	造林学実習	造林学実習
	経済学演習	経済学演習	経済学演習
	林学実地演習	実地演習	林学実地演習
第二年	林価算法及森林較利学	森林数学	林価算法及林業較利学
	森林経理学	森林経理学	森林経理学
	造林学	造林学	造林学
	森林物理学及森林工学	森林工学	森林工学
	樹病学	樹病学	樹病及木材腐蝕学
	森林利用学	森林利用学	森林利用学
	森林化学	林産製造学	林産製造学
	—	—	木材工芸的性質論
	森林理水及砂防工学	森林理水及砂防工学	森林理水及砂防工学
	林政学	林政学	林業政策
	—	森林法律学	森林法律学
	財政学	財政学	財政学
	法学通論	—	—
	—	—	行政法
	—	—	民刑事訴訟法
	測樹学実習	—	測樹学実習
	造林学実習	造林学実習	造林学実習
	森林工学計画及実習	森林工学計画及実習	森林工学設計及実習
	森林理水及砂防工学計画及実習	森林理水及砂防工学計画及実習	森林理水及砂防工学実習

	—	森林利用学実習	森林利用学実験
	—	—	林価算法及林業較利学演習
	森林化学実験	林産製造学実験	林産製造学実験
	—	—	木材工芸的性質実験
	林学特別講義	—	—
	—	実地演習	林学実地演習
第三年	森林経理学	森林経理学	森林経理学
	造林学	造林学	造林学
	森林保護学	森林保護学	森林保護学
	森林利用学	森林利用学	森林利用学
	林政学	林政学	林業政策
	森林管理法	森林管理学	森林管理学
	森林法律学	—	—
	—	木材商況論	—
	—	—	林業史
	—	—	木材貿易論
	—	—	森林美学
	［随意科目］農学大意	［随意科目］農学	—
	［随意科目］狩猟術	［随意科目］狩猟論	狩猟論
	—	［随意科目］殖民学	殖民学
	—	—	農政学
	—	—	森林牧畜論
	［随意科目］養魚論	—	—
	森林利用学実習	森林利用学実習	森林利用学実習
	森林経理学実習	森林経理学実習	森林経理学実習
	—	造林学実習	造林学実習
	林学実地演習	実地演習	林学実地演習
	林学特別講義	—	—
	卒業計画	卒業論文	卒業論文

注）比較のため、類似する学科目を配列している。
典拠）1908 年 9 月 14 日付『官報』、『東北帝国大学農科大学一覧　自明治四十三年至四十四年』、1913 年 7 月 3 日付『官報』。

東北帝大農科大学林学科の1913年の学科目の改正では、より詳細な科目名に改正される学科目が多いため、以下解説では主に1910年の学科目を取り上げ、1913年改正の学科目は適宜取りあげる。

第一年では、東京帝大農科大学林学科、東北帝大農科大学林学科の学科目で共通、類似する科目に「気象学」「植物生理学」「森林植物学」「森林工学」「森林測量学」「造林学」「経済学」「森林植物学実験」「森林測量学実習及製図」「造林学実習」「経済学演習」「実地演習」がある。

「岩石学」は、東北帝大農科大学林学科の学科目の制定当初から引き続き、東京帝大農科大学林学科には無く、東北帝大農科大学林学科のみが課す学科目である。また、東北帝大農科大学林学科のみが「法学通論」を第一年の学科目とする。実習科目では1910年改正で設けられた「森林数学実習」、1913年の改正で設けられた「測樹学実習」も、東北帝国大学農科大学林学科のみの科目である。

東京帝大農科大学林学科の「森林動物学」に相当する科目は、東北帝国大学農科大学林学科の「応用鳥学」と「森林昆虫学」の２科目である。そして、対応する実習として「森林昆虫学及応用鳥学実験」が設けられ、1913年の改正ではさらに「森林昆虫学実験」と「応用鳥学実験」の２科目に増加した。

第二年では、「林価算法及森林較利学」「森林経理学」「造林学」「樹病学」「森林利用学」「森林理水及砂防工学」「林政学」「財政学」「造林学実習」「森林工学計画及実習」「森林理水及砂防工学計画及実習」の11学科目が東京帝大農科大学林学科、東北帝大農科大学林学科の学科目に共通する。

東京帝大農科大学林学科のみの科目には、「林学特別講義」がある。東北帝大農科大学林学科のみの特徴としては、東京帝大農科大学林学科とは異なり、第二年で「森林法律学」を課すことがあげられる。1913年改正の学科目では「木材工芸的性質論」「行政法」「民刑事訴訟法」「木材工芸性質実験」等が新たに現れる。

第三年では、「森林経理学」「造林学」「森林保護学」「森林利用学」「林政学」「森林管理学」「森林利用学実習」「森林経理学実習」「実地演習」の９科目が東京帝大農科大学林学科、東北帝大農科大学林学科で共通している。東京帝大農科大学林学科のみに見られる科目は「養魚論」「林学特別講義」で、東北帝大農科大学林学科のみに見られる科目は「造林学演習」のほか、1910年改正の学科目では「木材商況論」「殖民学」が、1913年改正の学科目では「林業史」「木材貿易論」「森林美学」「農政学」「森林牧畜論」があげられる。

（まとめ）

1907年制定の東北帝大農科大学林学科の学科目は、「岩石学」を除いて、東京帝大農科大学林学科の学科目に含まれる科目で編成されている。

1910年、及び1913年の学科目の改正を経た後も、東北帝大農科大学林学科の学科目は、多くの科目が東京帝大農科大学林学科の学科目と共通する。両者に共通する科目には、第一年では「気象学」「森林植物学」や数学に関する科目といった基礎科目が、第二年以降は「森林経理学」「造林学」等の林学に特徴的な専門科目が占める。第二年では「森林理水及砂防工学」、「森林化学」や「林産製造学」などの理工学に隣接する科目が見られる。第三年では「林政学」「森林管理学」等の文系科目に隣接する専門科目が見られる。

1907年の学科目制定時には、東北帝大農科大学林学科に独自の科目は「岩石学」以外に見られないが、1910年、1913年に改正を重ねるにつれて、独自の科目が増えていく。例えば、1910年の改正では「木材工芸的性質論」「行政法」「民刑事訴訟法」「森林昆虫学」「応

用鳥学」が、1913年の改正では「林業史」「木材貿易論」「森林美学」「農政学」「森林牧畜論」が学科目に現れた。

おわりに

本稿では、帝国大学農学部林学科について教育の面から調査することを目的に、学科目に選択科目が現れるようになる1919年を画期として、東京帝大農科大学林学科と東北帝大農科大学林学科の学科目を比較した。

1907年制定の東北帝大農科大学林学科の学科目は、「岩石学」を除いて、東京帝大農科大学林学科の学科目と同様の科目で編成されている。学科目の面から東北帝大農科大学林学科の独自性を見いだすことは難しい。東北帝大農科大学林学科の教授である新島善直や小出房吉は東京帝大農科大学林学科の卒業生であることを考えあわせると、東北帝大農科大学林学科の学科目は、先行する東京帝大農科大学林学科の学科目をモデルとして編成されたと考えられる。

1910年、1913年に改正された東北帝大農科大学林学科の学科目は、該当時期の東京帝国大学農科大学林学科の学科目と共通する科目が多い。各科目が設定された学年ついては、両者ともに、第二年では「森林理水及砂防工事」、「森林化学」・「林産製造学」等の理工学に関わる科目が、第三年では「林政学」「森林管理学」等の社会学に関わる科目が確認できる。東北帝大農科大学林学科は、基本的な編成の構造を東京帝大農科大学林学科の学科目から受け継いでいると考えられる。

しかしながら、1910年、1913年の改正後には、「森林昆虫学」「応用鳥学」「木材商況論」「殖民学」「林業史」「木材貿易論」「森林美学」「農政学」「森林牧畜論」といった、東京帝大農科大学林学科の学科目には見られない科目が設けられていた。昆虫学を専門とする松村松年（札幌農学校第1895年卒業、動物学昆虫学養蚕学第二講座担任）や、「森林美学」を担当した新島善直といった教官の影響があるものと思われる。

教官の影響については、本稿で画期とした1919年以降の学科目とともに、今後の課題としたい。

［注］

1）『帝国大学農学部の形成と展開に関する研究―九州帝国大学を中心に―』平成27～30年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C）課題番号：15K04237）研究成果報告書、2019年３月（九州大学学術情報リポジトリ、https://hdl.handle.net/2324/2230707）、15、22ページ。

2）「東京農林学校ヲ帝国大学ノ分科大学トナスノ件」（勅令第92号、1890年６月12日公布）、1890年６月12日付『官報』第2084号、１－２ページ。

3）「帝国大学令中改正」（勅令第93号、1890年６月12日公布）、1890年６月12付『官報』第2084号、２ページ。

4）「学科課程改正制定」、1890年９月15日付『官報』第2165号、９-10ページ。

５）「分科大学学科課程中改正」、1893年12月14日付『官報』第3139号、７ページ。
６）「学科増設」、1910年４月22日付『官報』第8047号、５－６ページ。
７）「帝国大学各分科大学ニ於ケル講座ノ種類及其ノ数ヲ定ムルノ件」（勅令第93号、1893年９月８日公布）、1893年９月８日付『官報』第3060号、１ページ。
８）「明治二十六年勅令第九十三号改正ノ件」（勅令第87号、1900年３月30日公布）、1900年３月30日付『官報』第5020号、５ページ。
９）「明治二十六年勅令第九十三号改正ノ件」（勅令第125号、1902年３月28日公布）、1902年３月28日付『官報』第5616号、23ページ。
10）『東京大学百年史』部局史二、1987年、874-876ページ。以下、講座の専門及び講座担任の教官については同書874-884ページ及び『林業先人伝』（林業技術協会、1962年）、348-350、423-427、379-387ページによる。
11）『たぬき』（三浦書店、1916年）、『しか』（大日本山林会、1923年）。
12）外国人教師の出身国は各年の『一覧』による。
13）「東北帝国大学ニ関スル件」（勅令第236号、1907年６月22日公布）、1907年６月22日付『官報』第7193号、１ページ。
14）文部省令第21号、1907年６月24日付『官報』第7194号、１ページ。
15）『北大百年史』通説、第４章「東北帝国大学農科大学」第二節「農科大学の組織と機構」、1982年、180ページ。
16）1907年７月10日付『官報』第7208号、10ページ。
17）以下、東北帝国大学農科大学林学科の学科目の変遷については、拙稿「東北帝国大学農科大学林学科学生の専攻分野と卒後進路」、『北海道大学大学文書館年報』第17号、2022年３月、75-81ページ。

［後記］ 本研究は、JSPS 科研費 JP20K13838の助成を受けたものである。

（ささき　ともこ／北海道大学大学文書館員）